

## 仙台バプテスト教会幼稚園の開設 1954

### はじめに

ご承知のように、私たちの仙台バプテスト教会幼稚園と背中合わせに仙台お人形社幼稚園があります。当幼稚園より1年先輩です。考えてみればこれほど隣接した場所に、後発の仙台バプテスト教会幼稚園がよくぞ認可されたものですが、その理由が次のように言い伝えられています。

「建設の許可をもらいに行ったのは、グラント夫人キャサリンさんであった。彼女はかたことの日本語しか話せない。おまけに外国人は特に『テニヲハ』には弱い。その婦人が『ようちえん つくります からだわるいひと いれます』とか何とか繰り返し言ったものだから、係の人は『障害者のための特殊幼稚園でも作るのだべえ』と解釈して、あっさり許可を下ろしてくれたのだった。訳の分からない日本語を話すアメリカのおばさんに辟易して、詳しい説明を聞くのをあきらめたのかもしれない。このようにして幼稚園が塀を隔てて並ぶようになったのである。もし『幼稚園には障害者も受け入れます』と正しく説明したら、今の幼稚園はなかったのである。舌足らずも時には大いに役立つのだった」<sup>1</sup>。

なるほど。今では考えられませんが、当時はそのようなこともあったのかもしれない。

### 1. 小さな疑問が沸き上がる

手元に仙台教会の年表が何種類かあります<sup>2</sup>。その中で最もしっかりまとまっているものは、『献堂四十周年記念誌』巻末の「仙台バプテスト教会の沿革」です。その年表には1954年（昭和29）の欄に「現在地で幼稚園開設（4月）」とあります。それを見て「あれっ？」と思いました。幼稚園設置が県から認可されたのは、5月1日だったはずですが<sup>3</sup>。そこで年表としては最も古いもので、教会設立に当たって作成したと思われる「仙台バプテスト伝道所沿革」で改めて確かめてみると、「昭和29年5月 ミセス・グラントにより仙台バプテスト幼稚園を開設す」とありました。やはり5月だったとの確信を得ましたが、それではなぜ「幼稚園開設（4月）」などと書いたのか疑問になりました。単純なミスなのだろうか、未認可のままスタート

したのでらうか、何となく釈然としません。そんな時に、グラント師の著書の中に、開園の前に幼稚園の記事が河北新報に掲載された旨が書かれていたことを思い出しました<sup>4</sup>。その記事を探し出せば事の真相がはっきりするかもしれないと思い、早速宮城県図書館へ赴きました。

## 2. これは園児募集のパンフレットか！？

今の時代ですから、新聞もデータベース化が進んでいます。「河北ライブラリー」<sup>5</sup>は、1897（明治 30）年の河北新報創刊号から 2011 年（平成 23）12 月 31 日号までが電子データ化されたものですが、非常に高額なよう導入している図書館は国立国会図書館程度しか見つからず、またオンラインでの記事検索や閲覧サービスは行っていないため、今のところ活用は困難です。それに対し「河北新報データベース」は多くの図書館に導入されていますが、残念ながら 1991 年（平成 3）8 月以降のデータです。となると唯一の頼りはマイクロフィルムになります。そこで宮城県図書館において 1954 年（昭和 29）4～5 月の河北新報のマイクロフィルムを、一コマコマ追いながら記事を見つけ出す作業を行いました。これにはなかなか骨が折れました。1 日目、2 日目とマイクロフィルムと格闘したのですが見つかりません。そして 3 日目、だいぶ目も慣れてきたためでしょうか、これまで発見できなかった記事を、4 月 13 日（火）の夕刊の 4 面にやっと見つけ出すことができました。

その記事を読んで驚きました。なんとまるで幼稚園の園児募集のパンフレットであるかのように、教育方針や保育の特色が丁寧に紹介されているのです<sup>6</sup>。そしてさらに驚いたことには、記事の中に「本月二十六日開園することになった仙台バプテスト教会幼稚園（仙台市北四番丁）は・・・」と書かれているではありませんか。『献堂四十周年記念誌』巻末の年表の「幼稚園開設（4 月）」は正しかったのです！認可前にもかかわらず園児を募集し、幼稚園を開設・開園するというのはどういうことなのでしょう。お役所との関係において多少融通が利く時代だった、ということもあったかもしれませんが、それ以上にグラント宣教師夫妻の覚悟をそこに感じます。つまり、万が一認可されないようなことがあったとしても、自分たちはお預かりした子供たちを責任をもって保育していく、という強い覚悟です。キリストの精神をもって子供たちを育てることの大切さを確信し、またその業を通して福音を仙台の地に根付かせる使命を、夫妻は深く自覚していたのです。

### 3. 偶然の発見

この新聞記事に関連してもうひとつ面白いことがありました。幼稚園の記事の内容とは全く関係ないのですが、「日米の長所を調和 仙台に新しい型の幼稚園」というタイトルが書かれた記事の真上に、3月の新聞に掲載された小学生のつづり方の作品を選者が講評している記事があり、作品のベスト5が紹介されていました。その二番手に「東北大付属小（北七）五 安井洋子」とありました。実は彼女は1954年（昭和29）に仙台教会の新会堂が建った頃には既に礼拝に通っており、翌年の秋にバプテスマを受けた少女です。その後結婚され鈴谷姓に変わりますが、仙台教会の初期の時代から2022年に天に召されるまで、鈴谷洋子さん（旧姓安井）は仙台教会の教会員として誠実な信仰生活を送ってこられました<sup>7</sup>。

「はじめに」で述べた、二つの幼稚園が背中合わせで存在できた謎の説き明かしを紹介してくれたのが、この鈴谷洋子さんです。教会組織60周年記念として2015年（平成27）に発行された、『60年のあゆみ』の「教会員の証し」欄に掲載されています<sup>8</sup>。仙台教会の中で語り継がれてきた幼稚園秘話だったのでしょう。

（文責：小林孝男）

幼稚園の設立 <sup>9</sup>	
名称	日本バプテスト教会幼稚園
設置者	ワース・グラント
園長	キャサリン・グラント
教諭	三浦栄子、本宮絢子
定員	30名
開園日	1954年4月26日
認可日	1954年5月1日

**日米の長所を調和**  
仙台に新しい型の幼稚園



神様からさすかたあなただの抱子  
さまの 育を助けたいしませすー  
という暖かなて本月二十三日開  
園することになった仙台バプテ  
スト教幼稚園（仙台市北西番子）  
はアメリカで幼稚園を始めたキ  
ャサリン・グラントさんが園長と  
なってアメリカ式と日本式の両様  
を調和させ新しい試みで仙台の  
幼学前の子どもたちに新しい天國  
をあたえようというので発足する  
が、主として情熱に重きを置き自  
主性を養うことに指導して居る左  
の子どもを養育するのが目的とい  
うキャサリン・グラントさんは獨  
自をつとめることに願った。アメ  
リカ式と日本式の併用というわけ  
で日本人の保育を二入手法にお  
ねがいしてはじめて、ワシント  
ンから送られたアメリカの新しい  
方法も取り入れ、日本の行き方の  
「写真」型押ししてできる粘土工  
や人形の顔に黒いくの色を塗ら  
たり、皮箱工をでフリープレー  
の子どもたちに豊かさを給予園長の  
キャサリン・グラント女史

長所を残して獲得ものを一つ  
ていきたいと思ひます、  
子どもはいつかは幼時が一筆切  
て自分のことは自分でするで、  
進路を導かばせませ、遊びも  
フリープレー一應いのまま、で自  
分の一番正しい考えに向つて行く  
よう指導したい、また情熱のため  
には紙やわん土細工ばかりでな  
く通に、三回は日本の伝統であ  
る生花もとり入りて物を愛する心  
を、(英語としての英語も子ども  
のきかむ教えたり指導も強いこ  
のきかむ教えたり指導も強いこ  
幼園は教会とのなかりがあり  
ますから、宗教的な気分も味わ  
わすべてに感得する気持も保め  
て行くも導いて本道に導くも保め  
るい子どもを世界をくもつけり  
つは日本人としての基礎を導て  
たいとわがっています

河北新報夕刊 1954年(昭和29)4月13日(火)

---

<sup>1</sup> 教会 60 周年記念誌委員会『60 年のあゆみ』(日本バプテスト仙台基督教会、2015) 43 頁

<sup>2</sup> 「仙台バプテスト伝道所沿革」(1955)、「献堂 20 年のあゆみ(主な出来事)」(1974)、「献堂 25 年のあゆみ」(1979)、「献堂 30 年のあゆみ(略史)」(1984)、「仙台バプテスト教会の沿革」(1995)、「仙台バプテスト教会年表」(2015)。但し最後に挙げた年表は、校正に大きなミスが多数あるため使用には適さない。

<sup>3</sup> 資料(1954/05/01\_幼稚園設置認可)

<sup>4</sup> 『主の息吹の中で』37~38 頁

<sup>5</sup> 創刊号から 2011 年 12 月 31 日までの紙面 725,035 ページ分を、デジタル処理して 45 枚のディスクに収納したもの

<sup>6</sup> 資料(1954/04/13\_新しい型の幼稚園\_河北新報夕刊\_)、記事には次のようにある。

「・・・アメリカで幼稚園学を修めたキャサリン・グラントさんが園長となってアメリカ式と日本式の両様を調和させた新しい試みで仙台の就学前の子どもたちに楽しい天国をあたえようというので発足するが、主として情操に重点をおき自主性を養うように指導して健全なる子どもを育てるのが目的だというキャサリン・グラントさんは抱負をつぎのように語ったーアメリカ式と日本式の併用というわけで日本人の保母を二人お手伝いにおねがいしてはじめます、ワシントンから送られたアメリカの新しい方法も取り入れ、日本の行い方の長所も残して独特なものをつくって行きたいとおもいます、子どものしつけは幼時が一番大切で自分のことは自分ですること、整理整頓からはじめさせ、遊びもフリープレー(思いのまま)で自分の一番正しい考えに向かっていくよう指導したい、また情操のためには折紙やねん土細工ばかりでなく週に二、三回は日本の伝統である生花もとり入れて物を愛する心を養い語学としての英語も子どもの時から教えたら修得も速いと考えております、それに私たちの幼稚園は教会ともつながりがありますから宗教的なふん囲気も味わわせすべてに感謝する気持ちも深めて行くよう導いて本当に素直で明るい子どもの世界をくりひろげりっぱな日本人としての基礎を育てたいとねがっています」

記事にある生花を担当したのは教会員の莊子聡子さんで、個人的に私も大変お世話になった方である。園児に生花を教えていたことは以前から知っていたが、開園当初からこの働きを担っておられたことはこの記事で知った。また、日本人保母(教諭)が初めから 2 名いたことが、この記事から分かった。

『主の息吹の中で』37~38 頁、初めは入園希望者が一桁ほどしかいなかったが、この記事の掲載を機に応募が殺到し、初年度から定員の 30 名が確保できた。

<sup>7</sup> 鈴谷洋子(旧姓安井)さんは 2022 年 9 月 20 日に召天

<sup>8</sup> 資料(2015/10/18\_60 年のあゆみ\_抜粋) 43 頁

<sup>9</sup> 『主の息吹の中で』36~44、89~91 頁、幼稚園設置申請の書類作りには、グラント師の「教師兼協力者」の任にあたっていた佐藤ミツさんの大きな協力と支援があった(仙台教会歴史シリーズ その 19 と 22 参照のこと)